

○議長（茅沼隆文）

日程第2 議案第37号 平成29年度開成町一般会計補正予算（第5号）についてを議題といたします。

予算書の説明を順次担当課長に求めます。

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、議案を朗読いたします。

議案第37号、平成29年度開成町一般会計補正予算（第5号）。

平成29年度開成町の一般会計補正予算（第5号）は、次に定めるところによる。

歳出予算の補正。第1条、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ173万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ52億6,513万6,000円とする。

第2項歳入歳出の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」による。

平成29年11月1日提出、開成町長、府川裕一。

2ページ、3ページをお開きください。

第1表、歳入歳出予算補正です。歳入、第13款国庫支出金。右のページ、歳出、第2款総務費から第13款予備費につきまして、それぞれ、173万3,000円を補正するものでございます。

それでは、補正予算の詳細を歳入歳出予算事項別明細書により御説明をいたします。

10ページ、11ページをお開きください。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

それでは、歳入から御説明いたします。

13款国庫支出金、3項委託金、5目消防費委託金、1節消防施設費委託金でございます。

説明欄1、自主防災組織等のリーダー育成・連携促進支援事業委託金、173万3,000円でございます。こちらにつきましては、防災部長会議で消防防災施設マップ作製要望を受けまして、消防庁が所管しております自主防災組織等の地域の防災組織が、組織の枠を超えて連携して行う防災活動に対する都道府県または市町村が実施する事業につきまして、消防・防災施設マップの整備について応募いたしましたところ、この委託金が採択されましたので、今回、補正予算として計上するものでございます。

事業の内容につきましては、歳出で触れさせていただきます。

1ページおめくりください。

次に、歳出を御説明いたします。まず、2款総務費、1項総務管理費、7目交通安全対策費。説明欄1、交通安全対策推進事業費、消耗品費、19万2,000円でございます。

開成町交通指導隊員が、10月で2名、新たに入隊したことに伴いまして、当初予算では1名分の被服費を計上しておりましたが、もう1名分の被服費が不足するために補正予算として計上するものでございます。

続きまして、8款消防費、1項消防費、3目消防施設費、説明欄1、消防施設整備事業費、173万3,000円でございます。

こちらにつきましては、先程、歳入のほうで御説明をいたしました、自主防災組織等のリーダー育成・連携促進支援事業委託金に見合うものでございまして、補助率10分10の事業でございます。内容いたしまして、先程お話ししましたとおり、防災部長会議におきまして、自治会ごとに町内にある、消火栓、ホース格納箱、街頭消火器、防火水槽などの消防・防災施設のマップの作製要望を受けまして、消防・防災施設マップを作成いたします。各自治会、それから自治会を管轄する消防団が共同でこのマップを活用いたしまして、消防防災施設の位置、設置状況などを点検いただきまして、その点検結果を町に報告いただきます。町では、点検結果を台帳に記載し、管理するものでございます。

なお、こちらの事業につきましては、次年度以降も自治会消防団が共同で実施していただきまして、消防防災マップを有効に活用していただき、定期的に点検を実施していただく予定でございます。

なお、点検調査に使用する地図ファイル等の消耗品費が、6万3,000円、消防施設マップ整備委託料が167万円でございます。

続きまして、5目災害対策費、説明欄1、臨時的な一般管理費でございます。こちら、職員手当、40万8,000円でございます。こちらにつきましては、先日の台風21号の風水害の際に対応をいたしました、職員の管理職員特別勤務手当及び時間外勤務手当を補正するものでございます。参集した職員につきましては、29名、特別職が3名、計32名が参集している状況でございます。

説明は以上でございます。

○財務課長（田中栄之）

13款予備費です。今回の歳出補正所要額60万円について、予備費により調整をいたします。

説明は以上です。

○議長（茅沼隆文）

説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑をどうぞ。

1番、佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

1番、佐々木昇です。

ちょっと確認をさせていただきたいのですけれども、国の委託金ということですが、さっきの説明を聞いた中で、国と直接やりとりをやられているのは町ということですのでよろしいのかちょっと確認をさせてください。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

佐々木議員の御質問にお答えをいたします。

こちらにつきましては、まず県からこのような国の事業があるということで、御紹介を受けまして、それをまず県に手を挙げさせていただき、県を通じまして国へその書類を提出させていただく形になります。ただ、消防庁に提出をするという形になりますので、直接、その補助金の内容を詳細については国と町とで調整等をさせていただいたところがございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

1 番、佐々木議員。

○1 番（佐々木昇）

恐らく、私の感覚ですと、調査結果というのを報告すると思うのですがけれども、平成29年度はもう、半年以上過ぎてはいますが、今後、どのような工程でやっていくのか。平成29年度、単年度でやる事業なのか。ちょっと、その辺の説明をお願いします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

それでは、佐々木議員の御質問にお答えをさせていただきます。

こちら、ここで本日、議会にかけさせていただきまして、この後、スケジュール的には、契約等をさせていただく流れになりますが、12月中旬ぐらいに事前の点検、それから1月下旬ぐらい流れといたしましては、マップがあらかじめ、現在、手書きの町のマップがございますので、そちらを使う形になります。その資料をもとに作成いただきまして、共同点検を1月下旬から2月中旬に各地域、約20カ所程度の場所を確認いただきまして、その結果を町にいただきまして、それを国に報告するという、そのような流れを今のところ、スケジュールとして持っております。

この申請については、平成29年度ですが、内容として継続的なものを消防庁も求められておりますので、今回だけということではなくて、それを定期的に、例えば半年に1回ですとか、毎年、それを順番に場所を例えば変えながら調査をしていただくという形で、全地域の中を何年かけてそれを確認していただき、その結果を反映して、状態を確認、管理するという事業でございます。

ですので、単年度のみ事業ということではございません。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

1 番、佐々木議員。

○1 番（佐々木昇）

分かりました。それで、このマップを作成してから、今後、開成町でどのような

取り扱い、利用をしていくのか、全町民にそういうものを配布するとか、その辺、今後、開成町においてどのように、このマップを利用していくのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

先程、事業としては毎年継続してというお話をしましたが、平成29年度の補助金という形になりますので、補助金は今年度、委託金としては今年度のものになります。

こちらのマップを使つての効果というところでございますけれども、基本的には、各自治会にこのマップを2枚程度、配布をさせていただきまして、これを消防団の皆さんとの連携の中での点検、これを定期的に半年に1回程度実施いただくとともに今、自治会の中でもそれぞれ、その場所に何があるかというのは、そういう部分の点検活動等もされている自治会もございます。そういった部分でも活用していただけるようなところもあります。例えば、1枚は自治会館に貼り出ささせていただいて、地域の皆さんに周知をしていただいたり、もう1枚は、活動をする際の点検用のマップということでの活用という、そういう方法もあろうかと思います。

効果というところで、また消防団と自治会の皆さんが、同じ地図を持っておきますので、それぞれの情報が一元化できるということもございますので、もし、万が一、負担、具合が悪いですとか、いろいろな、そういう点検をした際のそれが、消防団と自治会がそれぞれ同じものを確認することによりまして、連携が取れるという、そういう効果も期待しております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑がありますか。

9番、井上議員。

○9番（井上三史）

9番、井上です。関連質問をさせていただきます。

消防と防災施設マップの整備委託料として、167万円を計上されておりますけれども、この167万円の中で、出来あがるマップというのはおよそ何部ぐらい、検討をされているのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

井上議員の御質問にお答えをさせていただきます。

こちら、各自治会ごと、まずそれぞれ、2枚ずつ。それから、消防団に受け持ち分団ごとのもので、各1枚ずつ配布いたします。それと、町が管理させていただく地図ということで、元の原稿みたいなもので町も持たせていただきますので、4枚

の、現在13自治会、それから、新たにみなみ地区もできてくるというところがございますので、約50枚近く、そちらを作成していくような形になろうかと思えます。

○議長（茅沼隆文）

9番、井上議員。

○9番（井上三史）

自治会によって、消火栓取り扱い訓練というのをやっているわけでございますけれども、50枚程度で十分なんではないでしょうか。場合によっては、先程、同僚議員の質問の中には、自治会、あるいは町民へというようという意向もちょっと伺えたのですが、50枚程度だけではちょっと、少ないような気がするが、その辺いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

こちらの地図につきましては、施設の場所をそれぞれの自治会の皆様が把握していただくという、その点がまずございます。場所のそれぞれ確認をまずしていただきまして、その自治会中で、例えば防災訓練で、消火栓の位置等を地域の皆様にお知らせいただくという形もありまして、例えば、点検用の地図ということで、今のところ、1枚は自治会館に例えば貼り出していただいて、皆さんに周知していただいて、使っていただいて、もう1枚は作業用というお話をさせていただきました。

一応、そのあたりの効果、そういった部分も含めまして、地図としては皆様、地域の自治会の防災部を中心とした、その中でお使いいただく地図ということで、2部ということで、場所によっては大きな自治会、小さな自治会がありますので、その部分もあるかと思えますけれども、その辺については地図の枚数等が変わってくる可能性もございますけれども、その辺の中でうまく1枚の地図を運用していただく、1枚、2枚の地図になりますけれども、それをうまく自治会の中で運用をしていただけるような形で、自治会の中でもその地図を、地図をラミネートということで、書き込みができるような地図になりますので、それにいろいろな情報をそれぞれ、入れていただいて、それを見ていただくように考えております。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（石井 護）

説明がなかなか理解されていないのかなと感じましたので、補足をちょっとさせていただきたいのですが。

この事業なんですけど、基本的には消防施設の消火栓を主体とした管理をしている。現在、先程、課長が言いましたように、町役場の危機管理担当課には、明細地図に手書きで丸を書いたりとか三角を書いたりとかといったようなものがあるんですけ

れども、正直、明細地図も古くてぼろぼろになったりとか、あるいは、予算、あるいは、質問の中にも小田原消防署等が点検をして、何かもう、さびていて、いざというときに使えるのか、みたいな消火栓もあったと。緊急に整備をしたいというような御提案をさせていただいたのがあるんですけども、そういったその管理をするためのマップということです。そのマップのイメージというのが、明細地図とかそういうものではなくて、町が持つ分とすると1枚か2枚分ぐらい。それが、紙ではなくて、耐久性があるように今、課長が申しあげたラミネートという、そういう形で。

更新をするときは、今言ったようにその上から油性のペイントですとか、あるいはシールで追加をしたりとかという形ができる、そういうマップなんですね。それを頭に入れておいていただいて、この事業というのは、たまたま消防庁のほうで、いわゆる行政のみだけではなくて、そういう自主防災会ですとか、そういった民間の団体と一緒にやるとか、そういう団体が主体でそういう地域に、防災力向上につながるようなことをする事業に対しては、補助金を出しますよという事業の募集があったんです。それを知り得て応募したところ、全国で30いくつかの自治体が応募したんですけども、採択されたのが26自治体です。その中には、うちの役場の事業スキームが良いんじゃないかということで、採択された。その事業スキームというのが、先程、説明をしたのですけれども、いわゆる共同でという色合いを出さないと補助金がもらえませんので、その中でたまたま、防災部長会議の中でも、「いや、そういうマップがあったらやりやすいんだけど」という声もありましたので、では、スキームとしてはまず、消防団はもちろんなんですけれども、自主防災会も今、うちも把握はしていますけれども、場所ですとか、あらためて点検をしてもらって、そのデータをもとに町が地図屋さんに委託して、管理用のマップ、台帳というか、データのものをプラスしてあるんですけれども、そういったものをつくっていただいて、それをもとにして今、言った今後、自主防災組織ですとか、消防団ですとかそういったものが点検をする。町もちろんですけれども、点検をしていく。そういうものの、マップに使うのですということのスキームで採択された。ですから、今度、必要があれば当然、それは別に隠すものではないので、増刷なりをして、そうすると、それは多分、補助金には当てはまらないので、町の一般財源なり何なりで、それは増刷しなさいよという話になると思うのですけれども、それが必要であれば、今回は、そういった事業スキームの中に採択をされたので、ぜひ良い機会なので、整備をしていく。そういう趣旨だと思います。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございますか。

4番、前田議員。

○4番（前田せつよ）

4番、前田でございます。

13ページ、交通安全対策推進事業費の中の、消耗品費19万2,000円とい

うことで、交通指導隊員さんが1名、増員されたということで、大変喜ばしいことであるなど御苦勞もあつたかなと思うわけですが、現在の交通指導隊の方は、自転車大会の指導をされたりとかということで、様々に御活躍をされているのは重々承知しているわけですが、町として、適正の人数ですとか、また現在、長年つとめあげていらっしゃる方もいれば、途中で脱退された方もいるというような状況の中で、どのようにこの辺を捉えて適正人数をはじめ、今後どのような形で、交通指導隊員さんに関して関わっていかれるか、御答弁願います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

前田議員の御質問にお答えいたします。

交通指導隊員さんの人数ですとか、その辺の組織的ものということでの御質問をいただいたかと思えます。基本的に交通指導隊さんの定員は、17名ということでございますので、こちらの人数に充足する形が一番、ベストだと考えおります。

ただ、交通指導隊員さんたちは、それぞれお仕事を携わっている関係もございまして、全ての事業に全ての方が、出席をするというのはなかなか難しいところもございまして、ある程度事業が成立する程度の人数は把握できるような形は、必要かと思えます。

また、1日、15日、交通安全点検日、本日もそうだったのですが、そこに交通指導隊の皆様、交代で出ていただいているような特定の場所に対して、それぞれ出ていただいているようなところもございまして、そのあたりもうまく運用の中で実施していただければと思えます。

基本的に、こちらの交通指導隊員さん、人数としては17名を確保するというのが目標ということで、交通指導隊の皆様とも一緒に人数をできるだけ充足ができるような形での、こちらの補充、充足をする形を進めていきまして、組織としてもしっかりしたものができるような形を考えております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

4番、前田議員。

○4番（前田せつよ）

4番、前田でございます。

大変に熱心になさっている方もいらっしゃると思うのですが、例えば、定年制とか、ボランティアの団体でございまして、その辺、やはりOBとして後方支援をするというような考え方で、例えば、ある程度の年齢になったらというような、そういう形の年齢構成的なものですとかは、お考えはいかがでしょうか。

また、現在、長い方は何年くらい在籍をされて、また、最近、入った方は何年くらいの方がいらっしゃるのか、その辺の経歴年数の状況把握はいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

前田議員の御質問にお答えいたします。

こちらの定年制ということでお話がございました。実際に交通指導隊さんの年齢の構成を見ますと、確かに上の方では60代を超えていらっしゃいますし、50代の方。それから、一番お若い方でも、40代以上の方という、そういう構成になっております。

実際の交通指導隊の経歴ですけれども、長い方になりますと20年、25年を超えているような長い方、隊長さんクラスになりますとそのぐらいなっている状況でございます。

ここで、新規で入られた方がいらっしゃいまして、今年の4月におひとり、それから、その前にも2年前ですとか3年前におひとりずつ入っているようなことでございますので、今、ベテランの方、20年を超える方が3分1ぐらいいらっしゃって、3分1ぐらいが新しく入ってきた方で、残りの方が中堅という、10年から15年近くの方という、そんな経歴、構成になっているような状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

前田議員にお願いをいたします。

今回の補正予算の質疑は、交通安全対策推進事業費としての消耗品費を支出することが良いか悪いかという質疑ですので、その内容に沿った質問をお願いいたします。

○4番（前田せつよ）

19万2,000円というのは、1人分の服装というかと思えますけれども、今までの御説明を受けますと、何名か出入りがある中で、今回、1名分だけの補正をするだけで、どうにかなったという考えるわけでございますが、これからのメンバー構成、また、体型の変化も女性はあるわけでございますが、今後、交通指導隊の制服に関してのさまざまな御配慮等々がありましたら、また先ほど来の年齢構成の中で配慮すべきことがあれば最後にお伺いして、終わりにしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

前田議員の御質問にお答えいたします。

制服の関係でございますが、こちら実は、女性の方々のズボンですけれども、今、御指摘をいただきましたように、年数によりましてはサイズが変わってくるということもございますので、そういった中で、昨年度ズボンについては、在籍者の方に対して、その部分についてはサイズを調整させていただきました、購入させていただいた実績がございます。

また、これから計画という部分でございますけれども、実は9月末でおひとり御

都合で退団されておりますので、お1人分が今、欠員が生じております。ただ、の部分がありますけれども、今回の補正の中で4月の当初の予算では、お1人分の欠員がお2人いましたので、その分の補充ということで予算化をさせていただきました、10月にお2人入隊されましたので、今回はお1人分の費用が足りないという部分でこちら、補正をさせていただいております。

平成30年度以降につきましても、お1人欠というところもありますので、1名分の費用は計上をさせていただいた中で、当然、充足については今後とも引き続き、今年の採算と連携をして進めさせていただきますが、こちらの分の隊員の被服につきましても、補充ですとか、それから実際にサイズがうまく経年劣化とか、その辺の部分の御希望調査等も、昨年度実施をいたしておりますので、その辺も踏まえまして、予算化等に結び付けていければと考えています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

2番、山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。消防施設整備事業費についてお聞きしたいと思います。

今回、歳入については国庫支出金から補助金が10分10ということで、大変良い、シナリオを書いて補助金を獲得したということでは、評価するところでございます。今後、実施するについては当然、国のモデルじゃないですけども、なるような形の中で事業実施をして、発信をしていっていただきたいなというところを、激励をとぼしながら内容についてちょっとお聞きしたいのですが。

先程、課長答弁の中では、地域と言いながら自治会というような自主防災組織ですよね。自治会の中にある、実防災会組織を意識した中での説明をされていますが、おそらく国で、狙っているのは、地域という部分を狙いとしているのかなと感じているのですが、当然、開成町の場合は自治会加入率が高いので、そこを利用した中で地域に広がりを持たせようという、狙いがあるのかと感じているのですが、やはり、自治会だけで止まってはいけないと思うんですよ。どのような形の中で、地域に拡散をしながらいろいろな、今後オリンピックなんかもあると外国人等も来たときに、啓発というのですか、そこら辺ができるのかなという期待はあるんですが、どのような形で今後、進めていくのか。スタートは自治会でも良いのですが、けれども、今後、次のシナリオの段階として、やっていくのかどうかちょっと気になりましたので、そこら辺の狙いとか、今後の発展というのをどのように考えて、マップ製作を有効に使っていくのかというのを1件お聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（石井 護）

それでは、私からお答えさせていただきます。

御質問の趣旨は全くそのとおりでと考えてございます。今回のこの事業について

は、そこも含めた中の、その中の一部話であって、そういった自主防災組織、まさに収取に事業名が書いてございますけれども、これはほとんど補助金というか、委託金の名称なんですけれども、そういった自主防災組織等の活動に対して、町とかも一緒になってやる場合については、補助していきますということです。

このマップというのは、消火栓等が主体ですけれども、それに限らずやはり、自治会以外というよりも、私どものほうはやはり、自治会というのを一番、核と考えている。その中で、そういったものを今、現在、自治会に入っていない方であっても、例えば、今まさに、ちょっと日本というか地球規模的にそういう災害というんですか、そういった活動期というのですか、そういった部分に入ってきているような条項もございますから、やはり自助という部分を考えていくと、自治会等に入って、防災訓練に参加したりですとか、一緒になって活動してくのは基本的には自分の身を守ることにつながるんだって思っていたらいいように、やはりまずは自治会を頑張ってもらって、それを町もそうですけれども、自治会もPRをしてもらって、言葉ちょっとあまり適切ではないかもしれないですけど、それをネタにして、自治会、課によって、そういったものにも結び付けていければなど。

そういうことをやることによって、議員がおっしゃったように、あえて自治会とそれ以外の地域という意味であれば、広げていきたいなという、そういうふうにご検討をお願いします。

○議長（茅沼隆文）

2番、山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。

今、部長答弁の中で、開成町の自治会加入率が良いというところを逆手に取って、そういうやり方というのも反対ではないのですが、と言いながらも、やはり自治会に入っていない人にもあわせて啓発をしていくのにはどうしたら良いのかなと、先程来考えていたんですが、一つの自分からの提案としては、自治会館の中にラミネートしたものをラッピングするだけではなくて、例えば自治会館の外に、貼るというのもある意味、地域に啓発をしているという部分に相当すると思うので、そこら辺の閲覧方法というのを中となると限られるので、ちょっとそこら辺、もうちょっと広く見た中で、自治会館の外に貼るような形の中で周知されれば、国が考える方向性とより、近づいてくるのかなというかんじもしますので、そこら辺は今後内容だと思っておりますので、もっと自分よりもプロがいると思うので、ぜひ、そこら辺も検討していただきたいとお願いをするのと、あわせてちょっと、1点気になったのが、先程、消火栓等という機材のお話をされていたじゃないですか。開成町は、災害井戸があると思うのですが、そこら辺のマップの明記、井戸の点検は何件かは隔年でやっていたと思うので、そこら辺の部分もマップに反映されてくるのか。ちょっと気になりましたので、そこら辺ちょっと御答弁をよろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

それでは、山田議員の御質問にお答えします。

消防防災施設、今、山田議員がおっしゃいましたとおり、消火栓、それから消火栓のホースの格納箱、それから消火器、防火水槽、さらには私の説明の中で漏れましたが、災害用指定井戸、こちら町内に約60カ所程度ございます。こちらにつきましても、所有者の方の御了解をいただいた中で、各地域の中の地図に反映をしていくような形を予定しております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質問ございますか。

（「なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

質疑がないようですので、続いて討論を行います。討論のある方はいらっしゃいますか。

（「なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

討論もないようですので、採決を行います。

議案第37号 平成29年度開成町一般会計補正予算（第5号）について原案に賛成の方の起立を求めます。

（起立全員）

○議長（茅沼隆文）

着席ください。起立全員によって、可決いたしました。